リカちゃんストラップ狂騒曲

平成16年8月、朝日高創立130周年に合わせて企画され、「岡山朝日高リカストラップ」（通称リカちゃんストラップ）が発売された。このようなグッズを県立進学校がつくったのはおそらく全国でも初めてということで、日本経済新聞、朝日新聞、毎日新聞、山陽新聞、岡山日日新聞のほか、関西のスポーツ紙、長野県の地方新聞までが取り上げた。1日1000人という人々から購入を求めるメールが殺到し、販売元の会社のサーバーがエラーで動かなくなったという。6000個が製造され、年末までに4500個程度売れたが、その後も毎年の入学式後に販売され、同窓会館の前には買い求める保護者の長い列ができた。

購入者からはメールも多数届いた。多くはお褒めや喜びの内容だったが、中には亡くなられた娘さんと重ねておられるとの声も。多くの物語を生んだ企画だった。
（注：現在は販売しておりません）

「え！応援団がなくなったの？」「え？応援団があったの？」

同窓生の間で「応援団」の話になると、その認識は年代によって大きく割れる。

応援団の活動は、運動部（主に野球部）の試合や、昭和29年から始まった操朝戦（昭和40年から三校戦、昭和50年から四校戦、昭和56年から五校戦）の応援が主だったが、その組織的位置づけは不明瞭で、部でも委員会でもなかった。

応援団が輝いたのは四校戦となって以降、入学式でエールや校歌を披露、運動会の入場行進で先頭を行進し、文化祭では生徒会執行部とともにバザーも開いた。特に昭和60年代から平成10年までの応援団の鼻息は荒く、「昔から応援団が各部の先頭にたって生徒会を運営してきた。今年も応援団から副会長を出している」との言が飛び出すくらい。

しかし、平成11年に大きな転機が訪れる。岡山市内県立普通科五校の総合選抜が廃止されたことで、五校戦が廃止されたのだ。当時の応援団長は「非常に困っている。行く末は真っ暗だ。」と嘆いた。団員は平成13年度に3人、16年度にはついに女子2人となった。彼女らは「後輩が一人もいません。みんなで朝日応援団を維持していこう！」と呼びかけたが、その後団員が入ることはなかった。顧問の先生がたびたび「朝日応援団」の復活を呼びかけていたが、すでに20年近くがたつ（別冊朝日5頁もご覧ください）。

仮装行列の変遷

岡山中学時代、運動会は生徒が自主的に企画・運営していた。このため、運動会の目的は生徒自らが楽しむことにあった。その結果、「余興」に大きな労力が注がれることになる。運動会は競技で体力を競う場であると同時に知力を競う場でもあった。演じて自らが楽しみ、他校の生徒や観客を沸かせて自らもまた楽しむ、それこそが岡山中学運動会の特異性であり「らしさ」であった。その精神の結晶とも言えるのが「仮装行列」。それも時代の流れとともに大きく変化している。

いよいよ来年（2024年）11月21日、母校は記念すべき創立150周年を迎えます。　岡中、一中、一高、二女、二女高時代が75年、岡山朝日となってから75年という特別な年です。

「仮装」して行列した時代（昭和24～40年度）

昭和26年卒
2F「子宝一家」

昭和28年卒

昭和35年卒

「出し物」の時代（昭和41～56年度）

昭和42年卒
3G「トロイの木馬」

昭和45年卒
3E「百姓一揆」

昭和46年卒
3I「自由の女神」